第３回京丹後市網野まちなか再生・活性化協議会　会議録

1　会　議　名　第３回京丹後市網野まちなか再生・活性化協議会
2　開 催 日 時　令和８年１０月９日（金）午後７時００分～午後９時００分
3　開 催 場 所　京丹後市役所網野庁舎ら・ぽーと２階会議室
4　出　席　者
（1）委　員
平松隆夫、梅田和男、吉岡敬恭、藤田政巳、柴田隆行、山﨑高雄、山口正彦、福島健智、平正彦、田中智子、田茂井勇人、八隅孝治、小嶋俊、福島和彦、志水美咲、吉岡高博、野村仁美、谷口輝、野村明宏、谷口隆亮、大槻美穂子、奥野嘉郎、小石原正志、水口慎太郎、吉野航平
欠席１人（小松裕美子）
（2）アドバイザー
志摩幹一郎、大滝雄介
（3）事務局
市長公室政策調整監　川口誠彦、網野市民局長　松本智子、同局　椋平哲朗
建設部長　中川正明、都市計画・建築住宅課長　井上浩一、同課　橋智子
都市・地域拠点整備推進室長　安田悦雄、同室　石井真澄、同室　楊川優太
（4）その他
京都府立丹後緑風高等学校　網野学舎　安味穂果、中村萌咲
5　次　　第
（1）開会
（2）事務局からの説明
ア　前回（第２回）の振り返り
イ　本日の進め方
（3）ワークショップ
ア　キーコンセプトの決定
※　キーコンセプトの議論に時間を要したことから、当初予定していたワーク②「利用シーン・整備内容等の検討」は第４回協議会へ持ち越すこととした。
（4）その他（次回開催予定）
（5）閉会
6　公開又は非公開の別　公開
7　傍聴者　１人
8　要旨（議事経緯）

開会

＜事務局＞

定刻となりましたので、ただ今から、第３回「京丹後市網野まちなか再生・活性化協議会」を開会します。委員の皆様におかれましては、公私とも大変お忙しい中、ご出席くださいまして、誠にありがとうございます。私は、本日議事に入りますまでの間、進行をさせていただきます、京丹後市建設部の中川でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、お配りしております資料の確認をさせていただきます。

「次第」、資料１「事務局説明資料」、参考資料「高校生ワークショップ結果概要」です。配布資料の揃っていない方はいらっしゃいませんか。

さて、本協議会につきましては、京丹後市網野まちなか再生・活性化協議会設置要綱第６条第２項の規定により、協議会は委員定数の過半数が出席しなければ開会することができないと定められています。本日、京丹後宿おかみさんの会　座長　小松裕美子様におかれましては、本日、所用にてご欠席でございます。

そのため、本日は委員定数２６人のうち、２５人の委員の皆様にご出席をいただいておりますので、本協議会の開会の要件を満たしておりますことをご報告申し上げます。

それでは、開会にあたり平松委員長、ご挨拶をいただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

＜委員長＞

皆様、こんばんは。

第３回を迎えまして、だいぶ皆さんも顔なじみになってきたのではないかなと思います。

本日は、これまでの議論を踏まえながら、キーコンセプトの方向性をまとめ、さらに具体的な利用シーンや必要な機能、運営のあり方などについて議論していく第３回目になります。

今回も、アドバイザーの志摩さん、大滝さんにもご参加いただいておりますので、それぞれのお立場から率直にご意見を出していただき、活発な議論にしていただければと思います。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

議事

＜事務局＞

平松委員長、ありがとうございました。さて、ここからは、議事に入らせていただきますので、平松委員長に議長をお願いしたいと思います。平松委員長よろしくお願いいたします。

＜委員長＞

それでは、ここから議長を務めさせていただきます。

委員の皆様方には、議事のスムーズな進行にご協力いただきますようよろしくお願いします。なお、ご発言の際は、挙手いただき、議長指名の後にマイクでご発言いただきますようお願いいたします。お手元の次第に従いまして、進めさせていただきます。

では、次第２「事務局からの説明」、次第３「ワークショップ」でございます。２つ続けて、事務局から説明及び進行をお願いします。

＜事務局＞
本日はお集まりいただき、ありがとうございます。本日もよろしくお願いいたします。都市・地域拠点整備推進室の楊川です。本日の流れは、大きく３つでございます。１つ目に、前回の振り返り。２つ目に、キーコンセプトの決定。３つ目に、利用シーンの検討、整備が必要なハードの検討を考えてまいります。

～資料１に基づき事務局から説明～

＜事務局＞
ここまでの説明について、質問はございますでしょうか。

～質問なし～

＜事務局＞
それではここからワークショップに入らせていただきます。

～資料１に基づきワークショップを実施（会議意見は別紙）～

＜事務局＞
本日は誠にありがとうございました。それでは委員長にお返しします。

＜委員長＞
ありがとうございました。まだまだ、ご意見等多々あろうかと存じますが、時間の関係もありますので、本日はこの程度にさせていただき、次回以降、また積極的なご意見をいただきたいと思います。それでは、進行を事務局にお返しします。

＜事務局＞
平松委員長ありがとうございました。次回の日程につきまして、１１月１３日（金曜日）１９時からの開催を予定しております。正式には改めてご案内させていただきますが、ご予定いただきますようお願いいたします。また、１０月２２日（木曜日）にはアドバイザーのお二方の元、舞鶴市への視察を予定しております。既にご案内もさせていただいておりますが、ご参加いただける委員の皆さまにつきましては、どうぞよろしくお願いいたします。
それでは最後に、山﨑副委員長からご挨拶をいただきたいと存じます。

＜副委員長＞

皆さん、本日はお疲れ様でした。

また、アドバイザーの志摩さん、大滝さん、いつも本当にありがとうございます。この後、舞鶴への視察でもお世話になりますので、その際もよろしくお願いいたします。

先ほど委員長も言われましたが、最初はまとまらないのではないかなというところから始まって、最終的には本当に良い会議になったと思います。

私自身、今日の議論を聞きながら、昔からよく網野に来ていただいている吉本興業の大﨑会長のことを思い出していました。大﨑さんは、新しく通信制の高校をつくられまして、「雨ニモマケズ高等学校」だったかと思いますが、若者の居場所をつくりたいという思いで、ずっと事業をされている方です。

私自身は、どちらかというとチャレンジすることが好きで、結構イケイケでいろいろなことを考えて行動しようとする方なんですが、今日の話を聞きながら、そういえば大﨑さんがこんなことを言っておられたなと思い出していました。

大﨑さんは「居場所」というエッセイも書かれておりまして、本当にいろいろな人がいて、居場所を求めている。私たちとはまた違って、ふらっと行けて、気持ちよく過ごせるような場所を求めている方もたくさんいる、というようなお話を聞いたことがありました。

今日の議論の中でも、そういった意見が出てきて、偶然かどうかは分かりませんが、うまく一つの方向にまとまったのかなと思っています。

また、今回決まったキャッチコピーについても、網野の人であれば皆さんが言葉の意味や雰囲気がよく分かると思いますので、こうした形で、本当に楽しい、面白い場所ができればいいなと思っています。

今後とも皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。

＜事務局＞

山﨑副委員長、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第３回京丹後市網野まちなか再生・活性化協議会を閉会させていただきます。本日は、ありがとうございました。

＜別紙　ワーク①「キーコンセプトの決定」の結果・主な意見＞

事務局から、第 2 回協議会後のアンケート結果等を踏まえ、これまでの議論で共通して見えてきた「ふらっと立ち寄れる気軽さ」と「チャレンジできること」の 2 つの視点について共有し、委員に確認したうえで、キーコンセプトの事務局 4 案を提示した。

なお、事務局からは、4 案の中から単純に 1 案を選ぶものではなく、言い換えや新しい案も含めて意見を出し合い、協議会として 1 つのキーコンセプトにまとめていきたいワークショップの趣旨を説明したうえで議論し、委員による投票と意見交換を行ったところ、以下の結果および主な意見があった。

1　結果

キーコンセプト：「ふらっと集い　つながりとチャレンジが生まれる場」

キャッチコピー：「やりてゃぁことやってみーな」

- キャッチコピーは、キーコンセプトをさらに補足し、親しみやすくこの場所の魅力を伝える言葉。「やりたいことをやってみて」という意味に加え、地域の人が挑戦を受け止め、見守り、応援するようなニュアンスを大切にしたもの。検討過程では「あんた」を入れる案なども出たが、語感等を踏まえ、最終的に現在の表現となった。
- キーコンセプトの想いは、主な意見を踏まえたうえで作成し、第 4 回協議会にて共有する。
- 「ふらっと立ち寄れる場所」と「チャレンジできる場所」のどちらを重視するか確認したところ、意見はほぼ二分し、どちらも大切にすべき要素であることが確認された。
- 以下の議論を踏まえ、単に人が集まることだけでなく、そこから「つながり」と「チャレンジ」が生まれることまでを、この場所が目指す方向として示すことが重要との意見がまとまっていった。

2　主な意見

(1)「ふらっと」立ち寄れる気軽さ・居場所について

- 「日常的に行きやすい場所」「居心地が良い」「また行きたい」という場所であることが大切。
- 「ふらっと立ち寄れる」「気軽に集まれる」という部分に惹かれた。
- チャレンジする人だけではなく、ふらっと立ち寄って、居心地よく過ごして帰る人がいてもよい。
- カフェやチャレンジショップを考える場合でも、まずは「ふらっと立ち寄れる」気軽さが大切であり、料金設定や今後の整備内容にも関係してくると思う。
- 「ふらっと」には、気軽に来られるという意味だけでなく、年齢や立場などに関係なく「フラット（平)」に集まれるという意味も感じられる。
- 「とりあえずあそこでしゃべろう」「とりあえずあそこに行ってみよう」と思える場所になるとよい。
- 高校生など若い人も含め、誰でも来やすい場所にしたい。
- 集え、集え‼、集い、それぞれ捉え方が変わってくる。‼は強い気がする。

(2) 人と人との「つながり」について

- 人が集まることで出会いが生まれ、情報交換がされ、そこで縁が結ばれるのではないか。
- 「縁を結ぶ」という言葉がよい。
- 性別、年齢、職業などに関係なく、いろいろな人が交わる場所になってほしい。
- 「交差点」という言葉には、さまざまな人が交わるイメージがある。
- ふらっと人が集い、そこで人と人がつながることから、何か新しいことが生まれていくのではないか。

(3)「チャレンジ」「やってみたい」について

- この場所を使ってカフェなど何かを始める人にとっては、熱い思いを持ってチャレンジしないと続かないのではないか。
- 「チャレンジありきの場所になったらいい」と思う。
- お店をやってみたい人などを見ていると、やりたい思いがあっても一歩踏み出せず、断念する人もいる。そういう人がチャレンジできる場が必要。
- 「1 回やってみる」ことができれば、その人にとっても、まちにとっても良くなっていくことがあると思う。
- チャレンジしやすいまち、チャレンジを受け止めてくれる・許容される場であってほしい。
- 「可能性を生み出す場」という言葉には主体性を感じる。
- 未来に向かって何かアクションを起こすこと、挑戦できることを大切にしたい。
- チャレンジしている人がいれば、「今日は何かやっているかもしれない」と、ふらっと行きたくなる。ふらっと集うこととチャレンジは別々ではないのではないか。
- せっかく網野に来たならを加えてはどうか。

(4)「可能性」「無限大」「未来」について

- 跡地は今は何もない状態だからこそ、「本当にどんなことも生み出せる」「可能性は無限大」と感じる。
- 「無限大」という言葉には、チャレンジだけでなく、立ち寄るやつながる、未来などさまざまな可能性を含められるのではないか。
- 「未来を描く」という言葉がよい。大人だけでなく、子どもや高校生など若い人も一緒に新しい未来を描いていく場所になればよい。
- 「新しい網野」という言葉には魅力がある一方、新しいものを求めていない人もいるのではないか。
- 人同士が繋がっていく流れがあると思うので、無限大の輪はどうか。
- 「無限大」「可能性」だけでは、この場所が何を目指しているのか少し抽象的ではないか。
- 可能性≒チャンス・挑戦（挑戦は重くないか）

(5)「きっかけ」「発見」「おもしろさ」について

- 「何かしたい人がいたら、あそこに相談したらいい」「とりあえずあそこに行ってやってみよう」と思える場所になるとよい。
- 「きっかけ」という言葉には、チャレンジだけに限定されず、いろいろな人の始まりを含めることができる。
- 一方で、「きっかけ」だけでは「何のきっかけなのか」が分かりにくいのではないか。
- 人が集まるのは「楽しい」「面白い」「気持ちいい」と感じるからではないか。
- ふらっと行って時間を過ごしていたら、「こんなものがあるんだ」という新しい発見があり、それが次のきっかけになることもある。
- 「きっかけ」は人によって違うので、それぞれが置き換えられる言葉として残してもよい。
- キーコンセプトですべてを言い切るのではなく、「無限大」「きっかけ」「発見」「おもしろい」といった今回出た言葉を、補足説明の中で生かしていけばよい。

(6) キーコンセプトに求める役割について

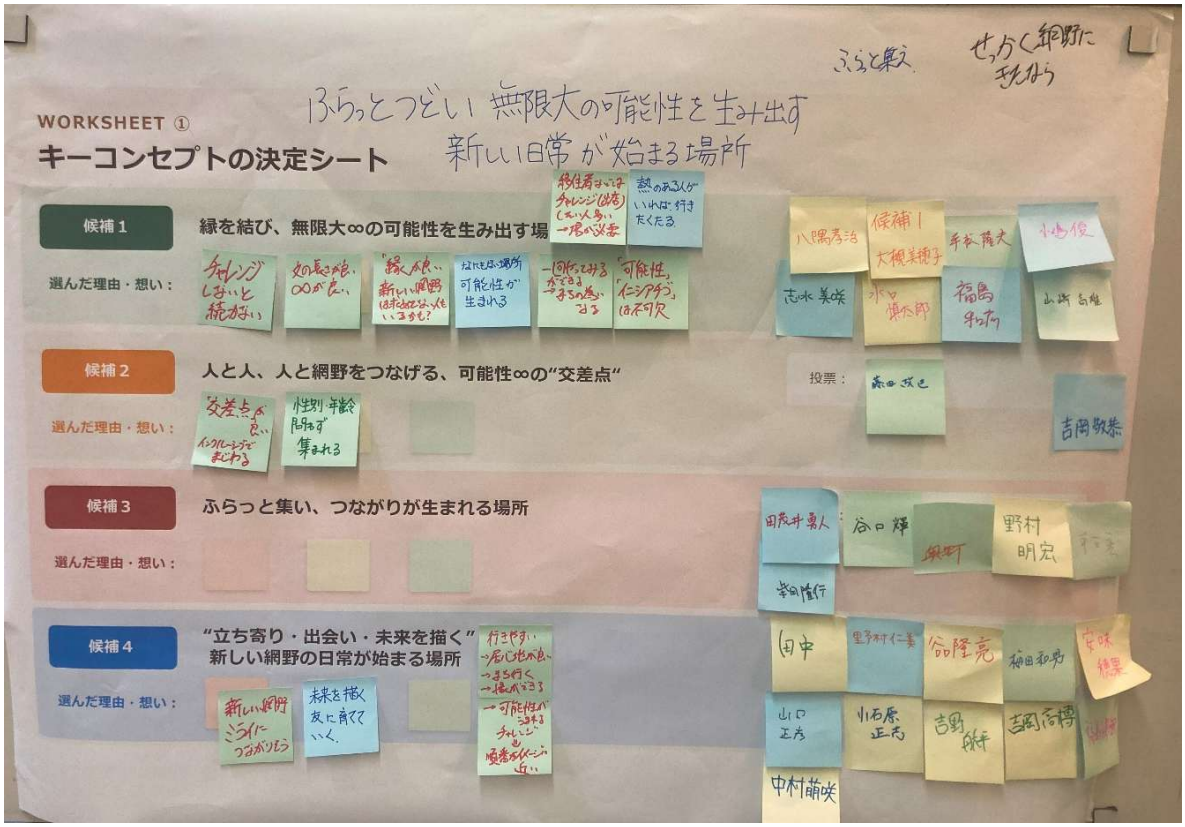
- 誰から誰に向けた言葉なのか、市がこの場所をどのような場所に育てたいのかも重要。
- 将来、テナントや運営する人を募集するときにも、「どうやって人がふらっと集まれるようにするのか」「どうやってつながりやチャレンジを生み出すのか」と問いかけられるような言葉がよい。
- ここで何をする事業者を選ぶのか、どんな施設や空間を整備するのかを考える際の判断基準になる言葉が必要。
- キーコンセプトだけですべての思いを表現するのではなく、補足説明やキャッチコピーとセットで伝えていけばよい。

(7) 網野らしさ・キャッチコピーについて

キーコンセプトとは別に、この場所をより親しみやすく伝えるキャッチコピーについても意見交換がなされ、「やりてゃぁことやってみーな」という表現にまとまった。

- 「あんたのやりたいことやってみて」くらい、ストレートな言葉でもよいのではないか。
- 「あんた」は少し語感が強く、高校生など若い人には使わない表現ではないか。
- 網野の言葉にすることで、地域の人が「やってみたらいい」「応援するで」と見守っている感じが伝わる。
- キーコンセプトとキャッチコピーをセットにすると、この場所のイメージがより伝わりやすい。

3　ワークシート（議論前に行った事務局案に対する投票結果）



8